

平成30年12月 南魚沼市議会定例会  
一般質問順位表

質問順位	議席番号	質問者	日程
1	1	大 平 剛	10日 (月)
2	8	永 井 拓 三	
3	13	岡 村 雅 夫	
4	14	佐 藤 剛	
5	15	寺 口 友 彦	
6	16	中 沢 一 博	
7	10	塩 川 裕 紀	11日 (火)
8	19	関 常 幸	
9	6	田 中 せ つ 子	
10	11	清 塚 武 敏	
11	3	目 黒 哲 也	
12	5	中 沢 道 夫	12日 (水)
13	9	桑 原 圭 美	
14	2	梅 沢 道 男	
15	7	勝 又 貞 夫	
16	4	吉 田 光 利	
計		16名	

**【質問方式】**（いずれも質問制限時間は答弁時間を含め 60 分）

**一括質問一括答弁方式：** 全質問項目を一括して行い、答弁も一括して行う。  
（初回は登壇して行い、質問回数は 3 回まで。）

**一問一答方式：** 質問及び答弁を一問ずつ行う。（ただし初回の質問は、登壇して最初の質問項目のみをまとめて行う。質問回数に制限なし）

**複合型一問一答方式：** 一問一答方式において、質問大項目の最初の質問はまとめて行い、以降は一問ずつ行う。

質問 順位	質 問 内 容
1	<p style="text-align: center;"><b>市の利雪活用について</b></p>
議席	
1	<p>(1) 利雪活用の意義をどのように市民に対して説明していくか。</p>
	<p>(2) 市の公共施設等での利雪活用をどのように行っていくか。</p>
	<p>(3) 民間での利雪活用・事業化をどのように促進していくか。</p>
大	<p>(4) 2020年の東京オリンピックに向けた計画と、それ以降の計画は。</p>
平	
剛	
(一問一答方式)	



質問 順位	質問 内 容
3	<p><b>1 新ごみ処理施設建設予定地 2 巡目の説明会は</b></p>
議席	
1 3	
岡 村 雅 夫  (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	<p>新ごみ処理施設整備説明資料（その 2）の準備ができ、周辺集落へ 2 巡目の説明会が始まった。八色原を皮切りに、反対署名した 4 集落の説明会が終了した。12 月議会終了後に再開し、1 月には説明会が終わる予定だ。</p> <p>(1) 市長は「2 巡目の説明会が終了したら、しかるべき時に判断したい」と言うが、署名で意思表示をした地域の感触をまず伺う。</p> <p>(2) 市長は「請願は重く受け止めている」と言いながら、あくまでもこの地で進めようとしている説明だ。請願の趣旨に反した説明と思わないか。</p> <p>(3) 市長は「もう一度耳を傾けて頂き、理解を深めて頂きたい」「この場所が最適地と考えている。同意を頂く方向で進めたい」「別のところは考えていない」と同意を求め、進める姿勢の説明だ。一方で「地元住民の理解がなければ決定できない」「全ての集落で賛成が多数を占めなければ実施できない」「一つの集落が反対でも実施できない」と説明している。大きく矛盾している説明と思うが所見を伺う。</p> <p>(4) 市長は「いずれかの時期に賛否を問う」と言うが、「方法は決めていない」と言う。公募では「近隣集落との対立を招いてしまう」と断念した。強引に推し進めるとしたら集落内で大きな混乱を招くことになる。請願の趣旨に従い、他の候補地の選定に舵を切るべきと考えるが所見を伺う。</p> <p><b>2 MMD O の調査報告を問う</b></p> <p>平成 29 年度一般会計決算の 2 款総務費の審査冒頭で、「MMD O の決算等に疑義がある。再調査する」との発言があった。議案提案をして、その内容に疑義があるなどの発言は異様だ。</p> <p>(1) 何を根拠に疑義があったのか伺う。</p> <p>(2) 何を調査したのか伺う。</p> <p>(3) どこ（誰）が調査をしたのか伺う。</p> <p>(4) 経過と結果を伺う。</p>

質問 順位	質 問 内 容
4	<b>1 在宅医療の充実をどう進めるか</b>
議 席	
1 4	
佐 藤 剛	<p>在宅医療の充実が求められる背景には、国レベルでは超高齢化社会へ突入し、その高齢化の進展も影響する医療費増という国の財政的問題、そして高齢化社会の後の多死社会での「看取り難民問題」という問題がある。加えて、急性期からの受け入れ、回復期、慢性期医療の受け入れ施設が少ないこの地域においては、在宅医療の充実は、生命の安心安全につながる深刻な問題でもある。</p> <p>そこで、その対策として「地域包括ケアシステム」の構築に向け進めているが、その総合的なシステム構築の基盤としての「在宅医療」について、現状と今後の取組を伺う。</p> <p>(1) 改めて「地域完結型医療体制」をどう描くか。 (2) 第三の医療「在宅医療」の体制をどう進めるか。 ①在宅医療拠点の現状と充足度そして今後の整備をどう考えるか。 ②訪問看護体制の現状と充足度そして今後の体制強化はどうするか。 ③「米ねっと」の内容、運用の充実、「遠隔診療」の導入など在宅医療を支えるシステム化を進める考えはないか。 (3) 地域包括ケアシステム構築に向けた取組はどうなっているか。</p> <b>2 雪冷熱エネルギー活用に向けての今後は</b> <p>(1) 現在の「雪資源活用事業」のめざすところは何か。 ①東京オリンピック開催に向け、雪国ブランドを発信し市の誘客に繋げたいとする目標であったが、手ごたえと今後の見通しは。 ②この1年の「研究」で得た成果と方向性はどうか。 (2) 今後の「この地の日常生活、生産活動に結び付く活用」についても同時に考えているか。 (3) 企業等立地の誘引として有力資源になり得る可能性は見出せるか。そのためにどう進めるか。</p>
(複 合 型 一 問 一 答 方 式)	

質問 順位	質問 内 容
5	平成 31 年度当初予算編成方針について
議席	(1) 資金収支計算書を用いて市財政の経営状況把握を行い、各課横断的経営改革プロジェクトチームを編成する考えはないか。
1 5	(2) 雇用の確保という視点から、固定資産税減免という手法を用いた企業誘致をどのように総括し継続しようとしているのか。
寺 口 友 彦	(3) 新潟県の浸水想定区域図を参考とした市のハザードマップ改定に併せて十二沢川への雨水の流入量調査を行い、流入量削減を執行すべきではないか。
(一問一答方式)	(4) 学校職員多忙化改善のための施策をどのように実行するのか。





質問 順位	質問 内 容
7	<p style="text-align: center;"><b>浦佐駅構内の有効利用について</b></p> <p>浦佐駅構内に観光案内所が設置される予定である。それに伴い、浦佐駅を上越新幹線、上越線、只見線、ほくほく線を利用する人々の魚沼地区の基幹駅として位置付け、地域住民及び魚沼地域の各種観光、病院、学校、文化施設を利用する人々が気軽に休憩・休息できる場所として、また、人々が交流できる場所を提供することにより、地域の活性化を図ることが重要と考えるが市長の考えを伺う。</p>
議席	
10	
<p style="text-align: center;">塩 川 裕 紀</p> <p style="text-align: center;">（一問一答方式）</p>	







質問 順位	質問 内 容
11	<b>今後のディスポーザー普及推進に向けての方針は</b>
議席	
3	
目 黒 哲 也  (一問一答方式)	<p>当市では、ディスポーザー導入に向けて平成18年に上出浦地区にて公設浄化槽を対象とした実証実験が行われ、一定程度の成果が確認できた。その上で、平成25年に新潟県内では他市に先駆けて「南魚沼市ディスポーザー設置条例」を制定、そして平成30年4月1日施行による条例改正を行い、本格導入が図られている。</p> <p>しかしながら現在の単体ディスポーザー設置数は、47基であり、その内訳は、六日町地域30基、大和地域15基、塩沢地域2基である。年度別にみると、平成25年度5基、平成27年度25基、平成28年度7基、平成29年度5基、平成30年度5基と、設置数の広がりには少ないところである。</p> <p>去る11月26日付の新潟日報に掲載されていたが、国は、ディスポーザーの技術を応用した装置を開発し、紙おむつごと下水に流す方式の実現化を目指して動いている。</p> <p>今や、国をあげて住民生活環境の向上と循環型社会の形成、そしてCO<sub>2</sub>削減に向けて進んでいるが、当市においては、市民の利便性向上、地球温暖化ガスや処理コストの削減、バイオマス利活用等が期待できるディスポーザー導入への普及推進に向けての市長の見解を伺う。</p>

質問 順位	質 問 内 容
1 2	1 国民健康保険税の引き下げについて
議 席	
5	(1) 国保加入者の平均保険税は、協会けんぽの 1.3 倍、組合健保の 1.7 倍と高額である。他の保険制度に比べても高額な国保税を、市長はどのように受け止めているかまず伺う。
中 沢 道	(2) 全国知事会では 1 兆円の公費負担増を政府に要望しているが、当市としても積極的に働きかけていく必要があるのではないか。それによって均等割・平等割りの廃止も可能になるのではないか、市長の考えを伺う。
夫	(3) 公費負担の増額がなくとも、せめて子どもの均等割の減免を実施する考えはないか。
(一問一答方式)	2 住宅リフォーム事業に替わる新たな制度について  今年度限りで、住宅リフォーム事業の廃止を明言しているが、新たな制度について、どこまで検討が進んでいるか、明らかにできる内容があるか、伺う。

質問 順位	質問 内 容
13	<p><b>1 学習指導要領変更後の南魚沼市の教育の方向性は</b></p>
議席	
9	
桑 原 圭 美	<p>2020年度に大学入試制度改革と学習指導要領の改訂が同時に行われることが決定している。この動きは非常に大きなものである。「量」より「質」。「詰め込み学習」から「活用を求める学習」に変わる。</p> <p>小学校からの英語、プログラミング教育、道徳の教科化等が主な変更点であるが、これらの変更点があったとしても、ゆとり教育時代から改善されない教育現場には懸念が生じる。</p> <p>教員の多忙化が進むであろうし、それに伴う課題にどう対処していけるかが大きな問題であると考えます。</p> <p>学習指導要領変更後の南魚沼市の教育の方向性について問う。</p> <p>(1) 学習指導要領変更をどのようにとらえているか。  (2) 週休二日のまま学習内容が増える。時間の無い中で理解が遅れ気味な子どもに対する復習などのケアをどうするのか。  (3) 授業内容に工夫が必要となり、教員の能力や資質によって差が生じる。また、プログラミング教育や英語に対する教員の負担増に対する対策はどうするのか。  (4) 少人数のクラス編成や教員の増加を検討すべきであると思うがどうか。</p>
(一 問 一 答 方 式)	<p><b>2 市外進学者の負担軽減のための住宅政策を</b></p> <p>市外進学者は学費の負担や生活費の捻出に苦労しているが、その多くは物価の高い首都圏で生活しており、その負担の軽減が可能な範囲で検討されても良いと考える。</p> <p>他の自治体に存在する空き家、空き集合住宅、使用可能な状態の寮などを市で借り上げ、学生に安価で提供することは検討できないだろうか。</p> <p>もし、南魚沼市の寮ができれば、そこでの生活で何らかの関わりが生じることにより、郷土愛の醸成が生まれるのではないかと。市外進学者に対する住宅政策の検討が可能か問う。</p>

質問 順位	質問 内 容
14	1 JR上越線の除雪体制の充実について
議席	JR上越線については、昨冬も運休が続き、市民の通勤や通学、通院等に大きな影響が出たところである。
2	南魚沼市では、JRの除雪体制の改善に向け、関係市町村との連携による新たな切り口での要望活動等の準備を進めているとのことだが、その進捗状況について伺う。
梅	2 南魚沼市の子育て環境の整備に向けた保育体制の充実について
沢	南魚沼市では、人口減少対策も含め、子育て世代への支援の充実に取り組んでいるところである。特に、子どもたちの保育環境の充実には、建物等のハード面の充実も重要だが、きめ細やかな保育環境の整備には、保育士の配置基準の改善が最も重要と考える。
道	市内においても私立保育園では、すでに3歳児15:1の保育体制が整備されているが、市立保育園では20:1の保育体制のままである。これを私立保育園並みの保育体制に早期に改善すべきと考えるが、考えを伺う。
男	3 会計年度任用職員制度導入に係る進捗状況について
(一問一答方式)	(1) 会計年度任用職員制度については、関係条例等を3月議会に提出し、4月から募集を開始するということだが、スケジュールに変更はないか伺う。
	(2) 制度導入に向けた臨時・非常勤職員の任用についての実態把握が終了したと思うが、その結果について伺う。
	(3) 会計年度任用職員制度の導入に当たっては、当初の制度設計が非常に重要になってくるが、4月からの募集にあたって、フルタイム職員とパートタイム職員の位置づけに対する考え方を伺う。





質問 順位	質問 内 容
16	1 南魚沼市環境基本計画について
議席	
4	
吉 田 光 利  (複 合 型 一 問 一 答 方 式)	<p>南魚沼市環境基本条例に定める基本理念の実現に向けて「南魚沼市環境基本計画」が策定されている。3つの基本方針「健康で安全な生活環境をつくる」、「豊かな自然環境と共に生きる」、「持続と循環のまちをつくる」と広範囲、多岐にわたって基本施策が示されている。取組の模範となるべく行う市役所職員の行動及び市が行う事業の数値目標や進むべき方向を明らかにした、市自らの「南魚沼市の環境行動計画」は大いに評価されるものとする。多岐にわたった環境基本計画での積極的な取組を踏まえ、林市政の所見を伺う。</p> <p>(1) 市自らの「環境行動計画」を活かし、I S O 14001 の認証取得を目指すと思うがどうか。</p> <p>(2) 新エネルギーの活用として、学校に雪冷房の導入は、利雪、省エネ、子どもの環境教育面から価値があると思うがどうか。</p>
	<p>2 市民バス運行について</p> <p>市民バスの利用者が少ない中、一般会計から 7,000 万円を超える補助金の歳出等々、いろいろと課題は多いところであるが交通空白地の解消、お年寄りをはじめとした交通手段を持たない市民への大きな行政サービスを担っている。少子高齢化が進む中で市民バス事業と運行について林市政に伺う。</p> <p>(1) 中長期にわたっての市民バス事業の将来展望はどう考えるか。</p> <p>(2) 利便性と利用率向上に向け、「フリー乗降制」の運行はできないか。</p>